

FAB

【ファブ】

FREE AWAJI BOOK 8890

2021

12

淡路町を、神田を、
もっと楽しいまちに。

SPECIAL INTERVIEW

谷川じゅんじ

MS&AD インターリスク総研

中村光身 × 安田不動産 森弘之

「新しい時代のウェルビーイング経営」

04

谷川じゅんじ

SPECIAL INTERVIEW

「人と空間 ネイバーフッドとコミュニティの時代」

谷川じゅんじ（たにがわ・じゅんじ）

1965年生まれ。2002年、空間クリエイティブカンパニー・JTQを設立。“空間をメディアにしたメッセージの伝達”をテーマに、さまざまなイベント・商空間開発・都市活性化事業・地方活性化プログラム・企業ブランディング等を手掛ける。独自の空間開発メソッド「スペースコンポーズ」を提唱、環境と状況の組み合わせによるエクスペリエンスデザインは多方面から注目を集めている。

10

MS&AD インターリスク総研

中村光身  安田不動産 森弘之

「新しい時代のウェルビーイング経営

MS&AD インターリスク総研の取組から」

CONTENTS

08 KANDA ODEKAKE MAP

14 WATERRAS BOOK FES 2021 / 淡路町二丁目町会イベント 報告

editor
橋口 文 Jo Hashiguchi

illustrator (裏表紙)
川目 七生 Nanami Kawame



谷川じゅんじ Junji Tanigawa

「人と空間 ネイバーフッドとコミュニティの時代」

(聞き手・文／橋口丈 写真／小林玲)

スペース・コンポーザーとして

僕は「スペース・コンポーザー」という肩書きで仕事をしているのですが、この言葉は多くの人にとって聞き慣れないのではないかと思います。空間づくりと言うと、デザイナーや施工の人たちを思い浮かべるかもしれませんが、空間はハードウェアだけでできているわけではありません。そこに来る人たちも含めて場をつくり育てていく必要があります。僕はハードとソフトの両面を長い目で見ながら構成していくという役割を「スペース・コンポーザー」と名付け、仕事に取り組んできました。

でも、実は20年前に自分の会社を立てた当時は「クリエイティブ・ディレクター」という肩書きで仕事をしていました。広告代理店の方と仕事をするのも多かったため、その肩書きに憧れもあったんだと思います。でも、ある大型のプロジェクトで関係者同士名刺交換をすると、みんな「クリエイティブ・ディレクター」ということがあった(笑)。

すでに世の中にこれだけ多くのクリエイティブ・ディレクターがいるのだったら、わざわざ競合の多いところに飛び込む必要もないだろうと感じ自分がそう名乗るのはやめました。

ちょうど独立3年目のときです。当時一緒にお仕事をしていた音の専門家の方について、その方はサウンド・スペース・コンポーザーという肩書きで仕事をされていました。音を使って空間をつくる仕事です。その方から「空間を構成する人という意味で、サウンドを取って、スペース・コンポーザーというのはどう？」と言われ、それだ！と思いきさつ翌日から名乗りだしたんです。結果として、その肩書きに対して多くの人が「それってどういう仕事なの？」と興味をもってくれ、自分と空間の立ち位置を説明できるようなったこともあって、仕事も広がっていきました。

エネルギーを同じ方向へ

今に繋がる仕事の基礎は、独立する前

の内装施工のデイスブレイ会社にいたときに培われました。そこでは営業として働いていたのですが、中堅規模の会社だったため、工程管理から現場のコントロールまですべて自分が責任者として関わることができました。そこですべてを一通りできるようにしたのは大きかったと思います。

空間づくりの仕事では、施主と呼ばれる注文主がいて、デザイナー、そしてコンストラクターが関わるのが一般的ですが、しかしそこでよく問題になるのが、それぞれの人のエネルギーが別の方向に行ってしまうということです。

施主の「良いものをつくってくれ」という要望に対して、デザイナーは自分のアイデアをどんどん盛り込む方に向かいます。そうすると当然コストが高んでくる。一方、コンストラクターは安くつくることが重要な評価軸なので、コストカットをしようとする。すると、みんな「良いものをつくりたい」のは同じなのに、ベクトルが逆の方向へ行ってしまう、最

悪の場合、できあがったのが妥協の産物だったりする。そんなときに僕が間に入るることによって、エネルギーを集約し少しでも高いクオリティーにしていけることはできないだろうかと考えたんです。施主の「がんばってください」というお願いを、具体的にどうがんばればいいのか言語化し、デザイナーやコンストラクターと調整をする。

僕の仕事のやり方としては、A案・B案・C案を選ぶことに時間をかけるのではなく、最も良いもの一つに絞り込んで、それをどんどん掘り下げていきます。その方がみんな同じ方向を向け、高いクオリティーを実現しようと仕事に専念できるからです。

空間づくりに関わる人々がウィンウィンの関係になれるよう人の話を聞き、咀嚼し、着地をさせる仕事をしようと思つて20年前に会社を立ち上げたのですが、それは今も僕の仕事の基本になっています。

人とサステナビリティ

キャリアの初めは目に見えるハードに関わる仕事が多かったのですが、年々軸足がハードからソフトに移ってきています。空間のあり方を決めているのは結局そこにいる人のエネルギーです。ハードのスペック以上に、空間における人々の気分をどうデザインしていくかがより重要になってきている。しかも、単に今の人々が満足するかどうかにとどまらず、将来も含めて価値ある空間であり続ける



のが、ウェルビーイングの考え方です。

ウェルビーイングに関して僕がよく引用するのが、タル・ベン・シャハーさん（ウェルビーイング研究の第一人者）の「SPiRE」モデルです。彼はそれぞれの頭文字をとった、スピリチュアル、フィジカル、インテレクチュアル、リレーションナル、エモーションナルが良好な状態をウェルビーイングと整理しています。僕たちは今後、これらのことを切実に捉え人生を歩んでいかなければなりません。どうすれば自分が幸せであるかを考えたときに、一生懸命働くのは素晴らしいことだけど、決してそれが全てではない。実際、Z世代（1990年中盤〜2000年代に生まれた人を指す）と呼ばれる若者と話をしていると、無意識

S	Spiritual Well-Being	精神のウェルビーイング
P	Physical Well-Being	身体のウェルビーイング
I	Intellectual Well-Being	知性のウェルビーイング
R	Relational Well-Being	関係性のウェルビーイング
E	Emotional Well-Being	感情のウェルビーイング

タル・ベン・シャハー氏の提唱をもとに編集者が画像を作成。

ためにはどうすれば良いかを考えなければなりません。これは今まさに様々なところで叫ばれているサステナビリティの問題で、僕も今は終着点のないプロジェクトにたくさん関わっています。

ところで、現在僕が携わっているプロジェクトでスパンの長いものの中には、ハードの完成が50年後というものもあります（笑）。50年ですからその時おそろく僕は生きていないと思うのですが、では今何をしているかというところ、プロジェクトを引き継いでくれる次の世代へのバトンをデザインしているんです。それを受け取ってくれる人との信頼関係を構築して、たとえ自分はハードの完成を見ることがなくても、うまくバトンを渡すことができればそれはサステナブルなわけですし、僕としては十分取り組むに値すると思っています。

このように、スペース・コンポーザーの仕事も最初はハードに重きを置いていたのが、人に移ってきて、今はサステナビリティが重視されています。新型コロナウイルス

であってもそのことを理解しているのが感じられます。

生活を流動化させて仕事以外の活動も積極的にやってみると、人生の可能性が広がっていきます。人生100年時代という言葉もありますが、僕がこれから特に重要だと思っているのが、「ネイバーフッド」と「コミュニティ」です。ネイバーフッドとは物理的な近所さんではなくても、思考やシンパシーを共有し合える人のこと。一方、コミュニティとは、自分がそこにいたいと思える居心地の良い場所や人の集まりのこと、つまりネイバーフッド同士が繋がって集まる場のことを言います。どちらも形はなくて基準もあいまいなものです。僕たちはそれらが厳然と存在を知っています。ポイントが、ネイバーフッドもコミュニティもお金では買えないということです。信頼やシンパシーといった無形の価値につながっていくためには、自分の貢献できることを考えるなど利他的な態度が求められます。もし面倒くさい

ナウイリスを経験したこの2年で、私たちの社会に対する目の向け方も変わったように思います。それまでの社会は、どうすればヒト、モノ、カネ、情報といったものをハイスピードで効率的に流通させられるかを考えてきた。でも新型コロナウイルスの登場により経済活動がストップしたこと、ふと私たちの心に「本当にこれでいいんだっけ？」という考えが浮かんだのではないのでしょうか。人類の次の生活を思い描いたときに、このままの規模やスピード感を維持することはサステナブルなのか？ この数年の価値観の変化に伴って、これから空間のあり様もずいぶん変わってくるはずだ。

ネイバーフッドとコミュニティ

テレワークやワーケーションなど新しい働き方が定着したことで、僕たちは空間性という意味でかなり自由になれる可能性があるんだと気がつきました。今後、人の生活はますます流動的になっていくはず。そんな時に大切になってくる

と感じてしまうなら、それは目先の利益ばかりを考えているからです。そうではなく、自分がコミュニティに貢献しようと思って活動していたら、セレンディピティといわれる幸せな出会いもあるはずです。ぜひ現役で仕事をしているときからそのようなことに時間を使うよう意識してみたいと思います。

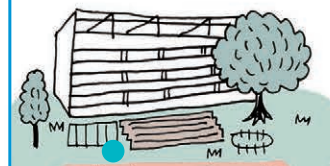
良い空間とは何かというと、やはりそこにいる人の関係が豊かかどうかということに尽きます。どんなに素敵なハードウェアでも、その人たちに活力がなければ砂漠のような場所になってしまふ。いろんな人を受け入れながらも、ルールを守ったり快適に過ごせるよう協力しあったりできれば良いコミュニティになっていきます。まさにこの神田界限には素晴らしい文化があって、この地域にしかない記憶がたくさんあるはず。豊かな文化をきっかけとして良いネイバーフッドやコミュニティづくりに参加できたら実に素晴らしいことではないでしょうか。



3331 Arts Chiyoda

千代田区外神田 6-11-14

【学生おすすめコメント】
元々中学校だった建物を改修したアートセンターです。3331という名前は江戸一本締めに由来しているそうです。教室だった部屋がギャラリーになっていたり、職員室だった部屋がフリースペースになっていたり、懐かしい気分でのんびりできること間違いなし！廊下を歩いているだけでも楽しい場所です。



※末広町駅からすぐ

聖橋から見える景観

【学生おすすめコメント】
近世・近現代のインフラを一望できる博物館のような景観です！江戸時代初期の神田川掘削、関東大震災復興橋梁の聖橋、神田川周辺の鉄道（中央線、総武線、丸の内線）などが存在し、各時代の設計の考え方が比較できるため、土木好きを唸らせる景観です。



松住町架道橋

【学生おすすめコメント】
関東大震災からの復興の過程で建設されたという歴史を有する、御茶水～秋葉原間に架かっている総武本線の鉄道橋です。黄色い電車が橋を行き来する際の「ガタンゴトン」という音は、私の心に安らぎをもたらしてくれます。

優美堂

千代田区神田小川町 2-4

【学生おすすめコメント】
ここはギャラリーとして様々な作品が飾られている空間で、カフェが併設されています。靖国通りに面する都会的な立地にも関わらず、畳と縁側があり田舎のような気分を感じられる落ち着いたスペースです。神保町といえばカレーですが、このカフェでも「富士山カレー」がー押ししのメニューです。大きな秋田犬がいてとても癒されます。



皇居外苑

千代田区皇居外苑 1-1

【学生おすすめコメント】
都会のと真ん中にも関わらず、緑が綺麗で、とてもリフレッシュできる空間です。丸の内から皇居への道は開けているので、走るにも散歩をするにも気持ちの良い空間が広がっています！私はワテラスから皇居ランによく行っています。



皇居外苑

● ※二重橋前駅、桜田門駅、日比谷駅、有楽町駅、東京駅などから徒歩圏内。

LET'S WALKING!



HAVE A FUN!



ワテラスチューデントハウス学生がピックアップ 神田のおもしろ空間

「空間」をテーマにした今号にあわせて、神田のユニークで
おもしろい空間を学生目線でピックアップしました。

サステナブルな社会と社員の幸福のために

安田不動産 森（以下、森） ワテラスにご入居いただいている御社は、この度大規模なオフィスリニューアルに取り組みました。その際のコンセプトとして「サステナブルな社会」と「社員の幸福」という言葉を掲げていらっしゃいます。

インターリスク総研 中村（以下、中村） 現在、世界は大きな変化の只中にいます。「グレート・リセット」という言葉が象徴するように、これまでの人類社会を抜本的に見直し、サステナブルな社会を構築していかなければならないと多くの人々が感じています。価値観も、GDPなどの指標を用いた経済効率優先的な考え方から、自然環境保護や人々の心の豊かさ、健康を大切にしようというふうに大きくシフトしている。そして今回の新型コロナウイルスによって、その重要性がさらに明確に認識されるようになりそうです。そのような変革の時期に、会社としてもサステナブルな社会に貢献できる存在でありたいと考えていますし、社員一人ひとりがそのような社会に貢献しているんだと実感しながら働けるようにしたいと思っています。

森 ご指摘いただいた価値観のシフトはオフィスを提供する側の私たちも感じているところです。もちろん、しばらく前から働き方改革といったムーブメントはあったのですが、新型コロナウイルスによってオフィス空間のあるべき姿がさらに変容しつつあります。今後も多くのお客様がテレワークを併用すると予想されますが、それに伴って改めてオフィスとはどのような場なのかという問いが

新しい時代の ウェルビーイング経営

MS&AD インターリスク総研の取組から

MS&AD インターリスク総研 代表取締役社長

中村光身

安田不動産 専務取締役
森弘之

ワテラスに入居するMS&AD インターリスク総研は、新たな時代の働き方を意識したオフィスリニューアルを実施。その背景にある思想やワテラスが提唱する「ウェルネス」との関係性などについて、MS&AD インターリスク総研代表取締役社長・中村光身氏と安田不動産専務取締役・森弘之氏が対談しました。

私たちの前に現れています。御社はこのような社会のシフトを今回どのようにオフィスリニューアルに反映させたのでしょうか。

中村 オフィス改革の構想はコロナ禍になる前から立ち上がっていて、その時からサステナビリティというのは強く意識していました。その後、コロナを経験して在宅ワークという選択肢も出てきたなかで、自宅と職場それぞれの機能を明確にしていきました。まず自宅は、集中ワークと自己研鑽に向いています。私も朝の7時台にPCを立ち上げて、1時間ほど集中して仕事をし、それから出社するのが日常です。一方、職場はイノベーションとナレッジの場。人が特定の場所に集まれば、教え合い、高め合うことができます。良いアイデアを生むためには、自分と違う意見を耳にすることが不可欠です。職場において、私は聖徳太子の「和を以て貴しと為す」という考えを大切にしています。数人のエースが引っ張るのではなく、お互いに助け合って、コミュニケーションをとることでイノベーションを起こしていく。会社をそのような

場にしていきたいと考えています。

森 確かに、少数のエースに頼るというのは一時的には良い場合があっても、それこそサステナブルではな



今回のリニューアルではテレワークに対応する設備のほか、コミュニケーションの活性化を促すスペースが多く設けられた。

いですよね。今回のリニューアルでは、小規模の会議室を多く設置されていたり、交流スペースが設けられていたり、コミュニケーションの活性化でイノベーションを誘発しようという狙いがよく分かります。今回、コンセプトの柱としてもうひとつ、「社員幸福」というものも掲げていますね。

中村 私は幸福型経営というのを目指しているのですが、その際、理論的に依拠しているのが前野隆司さん（慶應義塾大学大学院教授）の幸福学研究です。前野さんによると幸福には4つの因子があり、それは「やってみよう」「ありがとう」「なんとかなる」「ありのままに」というものです。私はこれらを取り入れたウェルビーイング経営を実現でき



ウェルビーイング経営の可能性を語る中村光身氏。

れば、生産性も向上して、企業の社会的使命も果たせるだろうと信じています。実際、幸せを感じて仕事をする人は、そうでない人と比較して生産性は3割増、創造性は3倍になるそうです。でも、単に「生産性向上のため」というのはちょっと違って、社員が仕事をして一瞬でも



これからのオフィス空間と利他について語る森弘氏。

幸せだなと感じる時間を増やしたい、社員の豊かな人生の一部に仕事があってほしいなと願っています。

森 「信じる」という中村さんの言葉は印象的でした。どうしても会社経営では目標を掲げて、そこに向けて数字を積み上げていくというふうになりがちです。しかし大方針を掲げて、あとは社員の自発性

に任せることができれば、社員のやりがいも向上し、結果として期待した数値を大きく上回るということもあります。ポイントはその文化や仕組みをどう作ればよいかです。近年、「利他」という言葉がたいへん注目されていますが、「評価されたい」「偉くなりたい」という気持ち社員それぞれに起こってしまうと、望ましくない結果を招いてしまいます。そうではなく、困っている仲間を助けようという気風が社内にあると、社員が前向きに仕事に取り組み、成果も向上します。

中村 企業が最終的には売上や利益を出さなければならぬというのは誰もが分かっていることですので、それを目指して仕事に没頭する社員たちに「それだけじゃないでしょう」と伝えるのが私の役割だと思っています。

つながりから生まれるウェルビーイング

森 弊社は、淡路エリアマネジメントの事務局としての一翼も担っており、街全体を盛り上げることで人々がより良く生きられる手助けをしたいという信念のもと様々な施策を行ってきました。一方で、テナント様との連携強化やワーカーの皆様からの認知度に課題があったため、今年からブランディングを再構築しました。議論を重ねた結果、ワテラスや地域の人々に、肉体的、精神的、社会的な意味で健康に満ちた日々を送っていただきたいという想いから「ウェルネス」をテーマに掲げました。これは、御社の「ウェルビーイング経営」とも親和性が高いと感じています。

中村 おっしゃる通りです。近年多くの組織が「健康経営」の重要性を認識し実際に取り組んでいますが、これは「社員が病気になるしない」ということを重視した概念と言えます。もちろん、今でもこれが最も大切であることは言うまでもありませんが、さらに高次の概念として「ウェルビーイング経営」というものがあります。これは、社員の身体的健康にとどまらず、つながりややりがい重視することによって、精神的・社会的健康も実現しようというものです。

森 私たちは今後、ワーカーの皆様同士や地域との接点をつくるべく、様々なイベントを作っていきたいと考えています。働いている施設でイベントに参加するのは最初気恥ずかしくて少しハードルを感じるかもしれませんが、すでにご参加いただいた方からは新しい気づきや思わぬつながりが得られたというお言葉も頂戴



ワテラスの夜を彩るイルミネーション。

しました。私たちが試行錯誤を繰り返しながらですが、ワテラスが単に働いて帰るだけでなく、明日が楽しみになるような場所になれるよう取り組んでいます。

中村 ワテラスさんは、広場での定期的なマルシェやフォトコンテスト、ブックフェスなど様々な企画を催していた方にも伝わってきます。今は夜のイルミネーションも綺麗です。

森 ありがとうございます。ここワテラスは「神田」という非常に豊かな文化資源をもつ場所にあることも特色です。ですので、ぜひワーカーの皆様にはワテラスを起点に街を歩いていただければ発見も多いと思いますし、私たちも体験の機会を提供できればと考えています。

中村 私は歴史好きということもあって、この街を気に入っています。ワテラス近辺だと、かつて存在した万世橋駅や、江戸時代に秋葉原にあった火除地（火災延焼を防ぐための空き地）のことなど様々な考えを巡らせながら歩くのはたいへん楽しいです。

森 神田はもの考えるのにも遊ぶのにも困らない街です。インタリクス総研さんとは向いている方向が同じと感じていますので、今後何らかのコラボレーションが実現できればとても嬉しいと思います。

NEW PROGRAM



高島早百合 (たかしま さゆり)

1992年、京都府出身。12歳でゴルフを始め、名門・東北高校へ進学。18歳でプロテストに一発合格プロに転向した。2018年にはツアーに参戦しながら初めて出場したドラコン競技予選で女子の日本最高記録 365 ヤードをマーク、決勝大会で優勝した。現在は、競技のほかに「飛ばし屋女子プロ」として様々なメディアで活躍している。

2022/02/02 (Wed.) 18:00-19:30

プロゴルファー 高島早百合

ドラコン女王に学ぶ！
ゴルフスイングの基本と
飛距離アップのヒミツ

ゴルフにとって永遠のテーマである「飛距離アップ」は、パワーがなくても実現できます！ ポイントは、効率よくインパクトすること。体に負担がかからず、シンプルな動きで、気持ちよく飛ばすスイングの基本を、ドラコン日本女子最高記録を持つ高島プロが解説します。イベント後半は、初心者から上級者まで役立つ上達のヒントを、皆さんの質問に答えながら紹介していきます。

募集：詳細はワテラス HP でご確認ください。掲載は 12 月下旬の予定。

※オンライン開催のみとなる場合があります。ご了承ください。

お問合せ：一般社団法人淡路エリアマネジメント (JPIC)
TEL : 03-5211-7282 (平日 10:00 ~ 17:00)
E-mail : online@jpica.or.jp

WATERRAS ILLUMINATION healing 2021

日程：2021.10.29 (金) ~ 2022.3.29 (火) ※ 16:30 ~ 23:00 入場料：無料

敷地面積 3,150 坪にも及ぶ広大な敷地を有するワテラス。Wellness Discovery, WATERRAS のコンセプト「ワテラスからはじまるウェルネスを、あなたに。」を輝きに変えるためのテーマは「ヒーリング」です。元々の空間演出の魅力を増幅させる圧倒的な規模のイルミネーションが、訪れる人々を日頃の疲れから解放し、そのきらめきを体感すれば誰もがぎゅっと癒されるような感覚を味わっているだけです。冬にだけ訪れる非日常的なこの空間。一人で見て、友人と見てもリラックスが実感できる、そんな空間をご用意いたしました。

主催：一般社団法人淡路エリアマネジメント
協賛：ワテラス業務部会、ワテラス振興委員会、安田不動産株式会社
製作：株式会社エムストラステイ

Our Community

淡路町を、神田を、もっと楽しいまちに。

WATERRAS BOOK FES 2021 盛会裏に終了

「本のおもしろさ、文化の多様性にふれる2週間」を掲げ、今年で3回目となるワテラスブックフェスが10/23(土)~11/7(日)に開催。今年は本の作者とワテラスチューデントハウスの学生によるトークや展示企画など、いっそう学生の活躍が目立つイベントとなりました。
主催：一般社団法人淡路エリアマネジメント
一般財団法人出版文化産業振興財団 (JPIC)
協力：安田不動産株式会社



ワテラスチューデントハウスの学生もイベントに登壇しました！



作家・青柳碧人さんをお招きした
トークショー「昔話がいかにしてミ
ステリーになったか？」の様子。

国際ジャーナリスト・堤未果さん
をお招きした「デジタル・ファシズム」
では学生が堤さんと議論をしました。

政治学者・中島岳志さん、社会活動
家・石山アンジュさんをお招きした
イベント「利他」とは何かの様子。

写真家・池田晶紀さんをゲストに4
名の学生がそれぞれ写真を持ち寄り、
神田の魅力を紹介しました。



淡路町二丁目町会企画イベント開催！
ワテラスチューデントハウスも協力させていただきました

11/27 同時開催・スマートフォンレクチャーとドローンで遊ぶ会

スマホの便利な機能をレクチャー！

「スマホを持っているけれど、いまいち使いこなせない…」という方を対象に講習会を開催。GoogleマップやLINE、YouTubeの使い方など、クイズを交えて楽しく習得を目指しました。お手伝いの学生が傍に立って参加者の質問に答えることで話が弾み、終始和やかな雰囲気イベントが進行しました。

主催：淡路町二丁目町会 協力：一般社団法人淡路エリアマネジメント

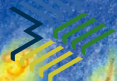


子どもたちとドローン体験！

3チームに分かれて体験会がスタート。はじめは皆さん上に飛ばすのに精一杯でしたが、すぐに上手に操作できるようになりました。中にはドローンの回転技を習得したお子さんも！ 淡路町二丁目町会と学生がコラボしたイベントで子どもたちが喜んでいる様子を見ることができ、嬉しい気持ちになりました。

共催：淡路町二丁目町会 一般社団法人淡路エリアマネジメント 安田不動産株式会社





WATERRAS

人情・情緒を引き継ぎ
大きなコミュニティをはぐくむ



FAB

17771

フリーマガジン 8890
No.34 (2021.12.23 発行)

発行：一般財団法人 深田エリナ・ネジメント
〒101-0063 東京都千代田区神田深田町2-105 ワテラスアックス1311
TEL 03-3526-3883 FAX 03-3526-0090 www.watererras.com

編集協力：一般財団法人出版文化産業振興財団 (JPIC)

¥0